

天国屋カフェ

大阪から友人夫婦が引越してきた。新居が住吉川の傍なので、私は大喜びでコープこうべ最大店舗のシアアを案内した。神戸は何と言ったって「生協」だからと自慢を始めたら、友人がでは「天国屋カフェ」を知っているかと。私は知らないと言いつつ反対に友人の案内でその「天国屋カフェ」に連れて行って貰った。

三宮から国道2号線を大阪へ向かって歩く。勤労会館など通り越して、生田川を渡るとまもなく「賀川記念館入口」の看板が見えた。隣は葺合警察署。警察署まで行つてくると向きを変えるとモダンな建物が目に

張 さつき (エッセイスト)

入り、空を見上げると大きく「賀川記念館」の文字が見える。ここの4階にそのカフェはあるのだ。

友人と私はそこでランチを食べた。その日はマーボー豆腐、春雨サラダ、スープ、ご飯そしてゼリーが付いて500円。すべてポランテアの方の料理で美味しかった。その上雰囲気も素晴らしい。空気が優しく皆が笑顔なのが嬉しかった。ケーキセットは400円。これが又ブルーベリーがたっぷり入っていて最高。週3回11時から16時の予約はあるけれどすべてがポランテアであることを思うとなんとも稀有な力

フエで又来たくなった。ポランテアの方の多くは組合員さんの由。

このカフェは記念館の一隅にあり、この建物が賀川豊彦そのものであり、ここを訪れる人は賀川先生のすべてを知ることができるようになっている。私もカフェの横のミュージアムを見学した。先生が成された業績の膨大なこと、心が行き届いていることに驚嘆した。

先生は1888年神戸にて誕生。しかし4歳で既に両親と死別、徳島で成長。16歳で洗礼を受け21歳のとき、神戸の葺合で伝道を始めた。そして今私がお茶を飲んでいる所で一膳飯屋「天国屋」を開業した。1910年のことであった。貧しい人々の滋養供給のために新鮮で安全な食事を提供しようという目的

であった。これが100年後「天国屋カフェ」として今再び受け継がれているのだ。その後先生は1960年までの生涯を友愛、互助、平和のために捧げ尽くされた。福祉活動、生活協同組合、労働運動、普選運動、農民運動、教育、医療、人権、共生など等と続き、戦後は戦争のない世界平和を求める活動へと進んでいる。これは3度にわたるノーベル平和賞候補となつたことでもよくわかる。

ここには賀川豊彦の願いがいっぱいある。生きづらさを持った人やしんどい思いの人、高齢者も若人もとさまざまに人たちがやってくる心のもつた食事を。共に生きるという賀川豊彦の思いが実践され着実に生き生きと歩んでいることを私は実感した。

神戸市消防局 監修

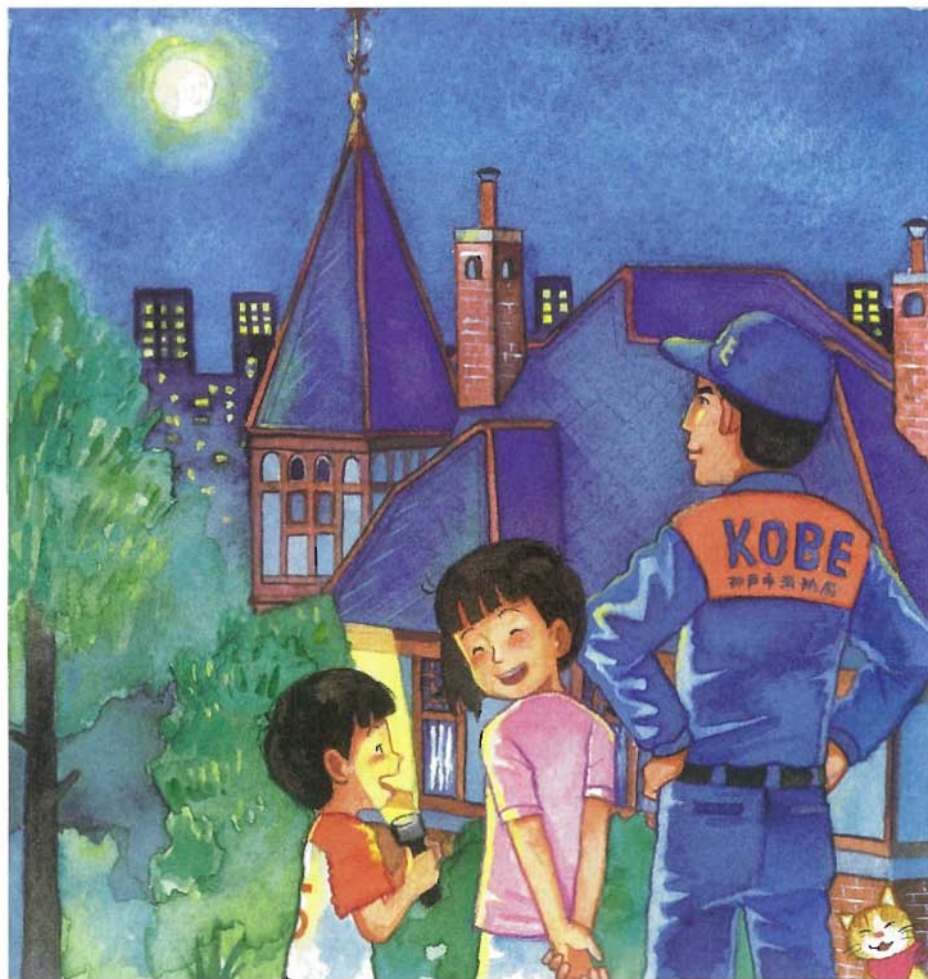


雪

No.747 9
2013.

生活あんぜん・あんしん情報誌

平成25年9月1日発行(毎月1日発行)
第65巻第9号(通巻747号)



Topic! 第42回 消防救助技術近畿地区指導会